



# サクラ

## 躍動する個性豊かな生命力



あべ 菜穂子

桜は一番、美しい(中略)  
復活祭にふさわしく  
白い花の衣装をまとうて  
たたずんでいる

(A・E・ハウスマン「一番美しい木」より)

ハウスマンが1879年に詠んだこの詩の桜はイギリス自生の「セイヨウミザクラ」であろうが、現在植樹されている数々の桜のほとんどは、本家の日本から来た「ジャパニーズ・チェリー」である。

と実に様々な品種の桜が、復活祭をはさんで次々と開花していく。花の色は白、ピンク、紅とそれぞれ違い、花期も同じではない。キリスト教国での桜の光景は、長い冬のあいだに眠っていた人間の魂が多様な桜の花びらとなって蘇り、一気に生命力を躍動させるかのようである。

そう、イギリスの桜は「多様な」のである。それはソメイヨシノがいっせいに咲く日本とはかなり異なる風景である。

ラムの存在がある。彼は日本に3度出かけて多くの桜を持ち帰りイギリス中に広めたが、一番大切にしたのは桜の「多様性」だった。

ソメイヨシノの登場によって近代日本で失われた多様な桜の風景が、この国で温存されている。海を渡った日本の桜は、それぞれに個性豊かな本来の生命力を、この地で精いっぱい輝かせているようだ。

背景には、20世紀の初めに熱心に日本の桜を紹介したコリン・ウッド・イング

(ロンドン在住ジャーナリスト、写真も) Ⅱ 「花のある風景」は今回で終わります。

ロンドンで桜が咲き始めた。一番咲きは「チェリー・プラム」と呼ばれるサクラの仲間。これからいろいろな桜が花を咲かせる。ちょうどキリスト教の「復活祭」のころに咲くので、桜はここでは生命の再生を人々に知らせる春の花である。

数ある木々のなかでも

ヤマザクラ系、オオシマザクラ系、カンヒザクラ系

ヤマザクラ系、オオシマザクラ系、カンヒザクラ系

ヤマザクラ系、オオシマザクラ系、カンヒザクラ系